



## 「イエス様を持ち運んだペテロたち」

～主の言葉に応答する～

「そうです。これが、この時代の終わりの前兆なのです。天地は消え去りますが、わたしのことばは永遠に残ります。しかしだれも、天の使いも、わたし自身できえも、その日、その時がいつかは知りません。ただ、父なる神だけが知っておられます。だから、いつ終わりが来ても困らないように、わたしの帰りを目を覚まして待っていないさい。」 マルコによる福音書13章30～33節 [リビングバイブル]

本日3月11日は、7年前に東日本を襲った大震災の記念の日となります。

先週木曜日午後に行われた家庭集会の中で、来られた兄弟姉妹と共に一つの映像を観て学びを致しました。以前に日本国際飢餓対策機構で働いておられ、現在は「声なき者の友の輪」という働きをしておられる、神田英輔先生のメッセージをお聞きました。

その中で、先生は、3. 11の大震災を神様から私たちへのメッセージであると受け止められ、偶像崇拝の罪の悔い改めとしてのメッセージとして受け止められ、それを三つにまとめて語られていました。一つ目は、「経済至上主義」という偶像崇拝についての悔い改め。これは、旧約時代の異教の神であり、豊穡の神であるバアル神への偶像崇拝と同じ。二つ目は、「科学万能主義」という偶像崇拝についての悔い改め。今の時代は、旧約時代のバベルの塔を建てた時と同じような状況。人間のテクノロジーで出来ないことはないというようなおごりに対する悔い改め。原発の問題はまさにその世界を突き付けられた。三つ目は、「権威への無批判的信頼」という偶像崇拝についての悔い改め。いじめや抑圧という形でやってくる。権威に対して“盲従”するのは危険な世界。これは、日光東照宮の“見ざる聞かざる言わざる”の文化を作り上げた江戸時代から継承してきてしまっているもの。これが現在の日本の閉鎖的社會を作り上げている。しかし、現在のグローバル化した社会の中では通用しなくなってきたことに気がついていない。

イエス様がなされたことも、世界の変革と共に、人々の心の中にこびり付いた人間的な偏見と、頑固さを取り除くことでした。初代教会を建て上げていった弟子たちは革新的でした。イエス様ご自身が働かれたように次々に偉大な主の奇蹟を表していきました。しかし、そのキリスト教も次第に命を失っていきました。その度に、神様は、教会の中に変革をもたらしてきました。今から500年前の宗教改革も同様だったでしょう。

大きな震災にあった日本、73年前まで考えられないような戦闘状態にあった日本。その都度、人々の心、教会は作り変えられていきました。“悔い改め”は大切な世界です。